

天賞堂の天使像 今どこに?

1950年代に大流行した森永製菓のCMソングを知っていますか。♪だアれもいないと思っていても、どこかでどこかでエンゼルはいつでもいつでもながめてる…今日はそんな懐メロの世界をそのままに、東京・銀座の街にそっと息づく天使の物語を…。

ぼくのこと、見かけたことある? ぼくの名前は「エンジェル」。男の子だよ。3月まで銀座四丁目の宝石屋さん「天賞堂」の前にいたんだ。お店の角からそっと顔を出して、歩いてくるカップルにハートの矢を射る。そう、キューピッドのお役目。大丈夫、痛くないよ。ちょっとキュンとして、幸せになるって言われていたんだ。

同店は1879(明治12)年、現在の銀座六丁目に創業。昭和初期に店舗を建て替えた際、屋上にローマ神話の神・マーキュリー像を飾った。終戦後に銀座四丁目に移転し、1972年に天賞堂ビルを建設。店頭に天使が現れたのは97年のビルのリニューアルの時だ。

ぼくが生まれた時、六丁目のお店を知っていた人たちには「マ



昭和初期に建てられた店舗の屋上に設置されたマーキュリー像=天賞堂提供

銀座物語

一キュリーが天使に生まれ変わって地上に降り立った」ってびっくりしたんだって。

天使像は高さ133cmの鋳物製。彫刻家の山田朝彦さん(75)が手がけた。「街の中に設置するので触って楽しんでほしいと考えた」と山田さん。狙いは的中。「頭をなでると恋が実る」「幸せになれる」と、道行く人の心を射止めた。

天賞堂の先代社長(故人)が山田さんに「天賞堂と銀座の街のシンボルになるように」と頼んだんだって。山田さんは小学1年のおいっ子さんをモデルに、ぼくをこの世に送り出してくれた。ちょこんと顔をのぞかせる角度や、みんなが触りやすいように羽の位置や、ぶりんとしたお尻のでっぱり具合を考え

現在の天使像(7階)
みゆき通り
有楽町駅へ↑
今年3月までの
天使像
銀座
すずらん通り
晴海通り
中央通り
和光
銀座駅
銀座線
銀座四丁目交差点
30m

「お尻が
チャームポイント



幸せのエンジェル

銀座六丁目に移転した天賞堂の入り口から中をのぞき込むエンジェル像

たんだって。

同店では、夏には日よけの帽子、冬にはサンタ帽をかぶせるなどし、2011年からフェイスブックで写真を発信してきた。

知ってた? ぼくの着せ替えをしてくれたのはお店の人だけじゃないんだ。冬にマスクをかけてくれたり、マフラー・バンダナを巻いてくれたり。お店の人は「誰だろう?」って首をかしげていたよ。ぼくは夜中に会ったけれど、教えないよ。きっと優しい気持ちでしてくれたと思うから。

今年3月、ビルの建て替えで一時閉店した時、「天使像はどうなるのか」との質問が相次ぎ、近隣の店のオーナーからも「絶対に残して」という声が上がった。閉店後も「どこ

へ行ったのか」と問い合わせが寄せられたという。

ぼくは銀座四丁目にはいないんだ。じゃあ、どこにいるかって? お店が4月から六丁目のビルの7階に移ったから、ぼくも同じフロアに来て、お店の入り口から中のぞき込んでいるんだ。そっと見てたんだけど見つかっちゃって、エレベーターに乗って7階まで会いに来てくれる人もいるよ。頭をなでたり写真を撮ったりして喜んでくれているんだ。

天賞堂は銀座四丁目に新たに自社ビルを建設中。店舗自体が入居するかは未定だが、新本桂司社長(43)は「エンジェルは銀座のシンボルとして四丁目に戻せたら」と思い描く。

ぼくのことを気にかけてくれる人がいるとわかってうれしいんだ。だから、どこにいても全力で役目を果たすよ。僕自身のハッピーナ気持込めて、今日もハートの矢を射る。そう、あの歌の通りなんだ。♪だアれもいないと思っていても、どこかでどこかで… 幸せになりたい人は会いに来てね。銀座の街で、いつも待ってるよ。

▼ 銀座四丁目の店頭にいたころの天使像。バンダナを巻いてくれた人も=天賞堂提供



T 発

文・杉戸祐子/写真・淡路久喜/紙面構成・折尾裕子